



たむらの稲作情報 ー第4号ー

令和8年5月28日発行

JA福島さくらたむら統括センター・田村農業普及所 問合せ先：0247-62-3113 >

《1ヶ月予報（5/21 仙台管区気象台発表、5/23～6/22）》

気温は「平年より高い」、降水量は「平年より多い」、日照時間は「平年より少ない」

◎生育に応じた水管理や追肥、水田内や畦畔の雑草防除をしましょう。

◎いもち病・紋枯病が多発する水田は、適期に予防散布をしましょう。

1 斑点米カメムシ類対策について

雑草防除を徹底し、カメムシ類のすみかを減らしましょう！

- (1) イネ科雑草はえさとなるので、雑草種子が結実しないような間隔で定期的に畦畔や農道の草刈りをしましょう。
- (2) ヒエやホタルイ等はカメムシ類の産卵場所となります。水田内にヒエやホタルイ等が残っている場合は、6月中旬までに中・後期除草剤散布により防除しましょう（前回の稲作情報第3号を参照）。

高温でカメムシ類が多発する見込みです！



2 溝切り・中干し作業の適期実施について

高温により生育が早まるため、茎数を確保したら、遅れずに中干しを行いましょ！

(1) 作業の開始時期と手順

ア 開始時期

必要茎数の目安（450～500本/m²）を確保できた頃田植えから30日後に一度茎数を確認しましょう！

〔例：60株/坪植え⇒約25本/株、50株/坪植え⇒約30本/株〕

イ 手順

◇溝切り：1～2日前に落水し、表土を少し固めた後、溝切り機で4～5m間隔で作溝する。

◇中干し：田面に1cmほどの亀裂が入るまで、中干しを行う（水田の土質に合わせて加減する）。遅くとも、出穂の30日前には中干しを終了する。

中干し：根はり促進、倒伏防止などの効果
☆遅れて中干しをすると、逆に籾数減少につながります！

(2) 中干し後の水管理

中干し後に、急に湛水状態を続けると、酸素不足で根腐れを起こすため、中干し後の初めは、土を湿らす程度の走り水とし、3～5日かけて間断かん水を行い、その後、飽水管理（※）とします。

※飽水（ほうすい）管理：足跡に水がたまる程度の水管理。浅く、ひたひた程度に水を入れ、足跡の水が無くなる前にかん水する。

3 つなぎ肥やケイ酸資材の追肥

6月中に葉色が明らかに淡くなった場合は、穂肥の前につなぎ肥として、速効性肥料をチッソ成分1kg/10a程度施用しましょう（硫安など）。

登熟向上のため、基肥にケイ酸資材を施用していない場合、出穂40日前頃にケイ酸資材の追肥を行きましょう。（例：ケイ酸カリ～出穂40日前に40kg/10a）

4 穂肥の判断と施肥量について

表1の品種・葉色を目安に、穂肥の時期や施肥量を判断します（目安よりも生育が旺盛な場合は、施肥量を減らす等の調整をしてください）。

◎基肥に一発型肥料を用いた水田は、基本的には追肥不要！

【表1 穂肥の時期と施肥量の目安】

品種	葉色 (カラースケール)	施肥時期	チッソ施肥量 kg/10a	【参考】 平年の出穂期	【参考】 平年の追肥時期
里山のつぶ	3.5～4.0	出穂25日前	2.0	7月29日（船引）	7月4日
ひとめぼれ	3.5～4.0	出穂25日前	2.0	8月1日（小野）	7月7日
コシヒカリ	3.0～3.5	出穂15日前	1.5～2.0	8月7日（三春）	7月23日

※（肥料例：NK化成肥料など）

5 いもち病・紋枯病対策について

(1) 補植用置苗はいもち病の発生源となるので、早急に取り除く！

(2) 平年の葉いもち初発は7月上旬頃、紋枯病の初発は7月下旬頃です。

いもち病・紋枯病が例年多発する水田や、葉色が濃く生育が旺盛な水田は、発生前の予防防除を行きましょう（表2参照）。

農薬はラベルの使用方法をよく読んで正しく使いましょう

【表2 病害虫防除の薬剤例】

適用 病害虫	薬剤名	防除時期	希釈倍数・ 使用量	使用方法	使用回数
いもち病 (葉いもち)	オリゼメート粒 剤	葉いもちの初発10日前 ～初発時	3～4kg/10a	散布	2回以内
	フジワン粒剤	葉いもちの初発7～10 日前	3～5kg/10a	湛水散布	2回以内
いもち病 (穂いもち)	コラトップ 粒剤5	出穂15～10日前	3～4kg/10a	散布	2回以内
紋枯病	モンガリット粒 剤	出穂28～14日前	3～4kg/10a	湛水散布	2回以内

～～ 農作業安全・熱中症に注意しましょう ～～

★県内で、5月にトラクター転倒による死亡事故が発生しています！

○機械作業時は、転倒事故に注意し、ヘルメット、シートベルト等を装着しましょう。

○農作業中はこまめに休憩・水分補給を行い、暑熱対策グッズを活用しましょう。